

# 可搬型ガス計測装置 ppbレベル濃度検出 東大とトヤマ

2007年9月13日  
日刊工業新聞

東京大学環境安全研究センターの戸野倉賢一准教授、トヤマ(神奈川県座間市、遠藤敬介社長、046・253・1411)の研究チームは、持ち運び可能な大きさにもかかわらず、ppb(10億分の1の濃度)レベルのガスを測定可能なガス計測装置を開発した。シックハウス症候群の原因となる揮発性有機化合物(VOC)など環境計測装置のほか、空港や商業

施設内での危険物見地装置などの応用を考えている。

開発した装置の大きさは50センチ立方、重さ300グラム。イオン化光源に118ナノ(ナノは10億分の1)の真空紫外レーザー光を使っており、従来装置より小型化が可能になった。実験では、VOCのベンゼンやトルエンのほか、爆発物のニトログリセリンもppbレベルで測定できた。今後、さらなる小型化とともに、精度向上を目指し、応用に向けた研究を続けていく。